



1\_東北電力の停電復旧訓練で高所作業車に体験乗車する参加者 2\_トラック協会の物資輸送訓練 3\_自衛隊による給水訓練 4\_三和シャッター株式会社シャッターの緊急修理訓練を披露 5\_東北カーテン株式会社指導のもと、参加者たちが段ボールベッドを組み立ててみました 6\_鷹巣地区の防災本部。無線機を使用して訓練を行いました



▲鷹巣地区の「安否確認班」が地区内を巡回。安否確認フラッグを使用し、安否確認訓練を実施しました

## Interview

独自の訓練を実施し、災害に備えている鷹巣自主防災会。会長に訓練の感想や今後の課題を伺いました。



鷹巣自主防災会会長 佐藤 昭さん

鷹巣地区では、平成23年4月に自主防災会を設立以来、独自の訓練を実施しています。

震災の1年ほど前から「地域でも防災訓練を行おう」という話になり、訓練の準備をしていたところ震災に遭いました。訓練の内容は毎年変えていて、今回は購入した無線機を各一時避難所に置き、無線機の使い方と連絡体制の確認など、一時避難所での活動をメインにしました。一時避難所に集まったら班長を中心に安否確認班を編成。地区内を巡回し、市から配布された安否確認フラッグが出さ

れているかどうかを確認を行いました。また、一時避難所に集まった時点で救助班の編成訓練も実施。救助班は、安否確認班が地区を巡回して、救出・救護が必要な人を見つけたら出動することを想定しています。

今回の訓練で、「安否確認フラッグをどこに出すと確認しやすいか」や、「要支援者・高齢の人の安否確認をどうしたらいいか」という課題も見つかりました。

このように、課題はまだありますが、地域の皆さんと議論しながら課題を乗り越え、この地区から亡くなったたりケガしたりする人がでないことがないよう、毎年訓練を行っていきたいと思います。また、地域全体で訓練を行うことで、防災の意識を忘れないで行きたいと考えています。



白石市長 風間 康静

本年の市総合防災訓練は、昨年に引き続き、東日本大震災の教訓を訓練内容に大幅に取り入れ、実施しました。防災センター2階で災害対策本部の設置訓練を行い、自主防災組織や自治会、小中学校などの指定避難所の管理者、市職員が協力した指定避難所の設置・運営訓練をすべての地区で実施。参加者は2,500人を超え、市民の皆さんの防災意識の高さを肌で実感することができた訓練となりました。

市民の皆さんには、人的被害の早期発見につなげることを目的として作製し全戸配布した「安否確認フラッグ」を玄関先に掲げていただくとともに、白石市医師会や白石歯科医師会、仙南薬剤師会白石刈田支部にも協力いただき、震災時の

開院の目印となる黄色い旗やのぼり旗を掲げていただきました。さらには、白石市社会福祉協議会によるボランティアセンターの開設訓練や災害協定を締結している東北カーテン株式会社による段ボールベット設置訓練なども行われ、いざという時をより意識した実践を踏まえた訓練を実施することができましたことは、非常に大きな成果であり、大変心強く思っています。

訓練後には、訓練参加者の方々から反省点などの情報を収集。来年度の訓練に生かし、よりよい訓練となるよう努めてまいります。

東日本大震災の発生から4年が過ぎた今、再度震災の教訓と訓練での成果や反省を踏まえるとともに、市民の皆さんの力添えをいただきながら、今後とも災害に強いまちづくりの推進を目指してまいりますので、市民の皆さんのご協力をお願いします。

## 震災の教訓を生かし、より実践的な訓練と備えを 平成27年度白石市総合防災訓練を実施

6月7日「午前8時、宮城県南部で震度6弱の地震が発生した」という想定のもと、平成27年度白石市総合防災訓練を市内の指定避難所などで実施しました。各会場では、各自主防災組織や各自治会が独自にシナリオを作成し、「避難・安否確認訓練」「初期消火訓練」「運営訓練」などを行いました。

市では、平成24年4月に導入した防災メールで直ちに市職員を非常招集しました。午前8時24分に災害対策本部を設置。防災無線で各地区公民館などから施設被害状況や職員の参集状況などが報告されました。

各自主防災組織や各自治会では、一時避難場所に避難した段階で、「安否確認フラッグ」を活用して地域住民の安否確認を行った後、指定避難所への避難や被害状況の調査などを開始しました。市職員は「初動マニュアル」に基づき、情報収集や伝達、避難経路確保、各自主防災組織・各自治会と連携して避難所の開設・運営を行いました。

白石市では、平成26年度から、各地区で一時避難場所への避難訓練と市内すべての指定避難所の開設・運営訓練を行ってまい

す。これは、東日本大震災を教訓に、災害発生初期期に、地域住民や自主防災組織・自治会の皆さん、指定避難所となる施設の職員などの連携した訓練を実施することで、迅速で確かな行動と相互の協力体制の確立、地域住民の防災意識の高揚、防災技術の習得を図るためです。

今回の訓練には、各指定避難所などに2,500人を超える市民などが参加。真剣な表情で訓練をしていました。また、市民の皆さんによる訓練に加え、東北電力株式会社白石営業所による停電復旧訓練や陸上自衛隊による給水訓練、炊き出し訓練、消防署による初期消火訓練・救命救急訓練が行われました。さらに、災害時の協力協定を締結している三和シャッター工業株式会社によるシャッター緊急修理訓練や公益社団法人宮城県トラック協会仙南支部による物資輸送訓練、東北カーテン株式会社による段ボールベット設置訓練なども実施されました。

各指定避難所では、総務班による避難所使用スペースの区割りや発電機の設置、情報管理班による避難者受付場所の設置、施設衛生班による施設の安全確認や簡易トイレの設置、食料物資班による食料・物資の保管や配布などの訓練が行われたほか、地域の状況に合わせた訓練が行われました。